

これからはテーマ決めます、今回テーマは『看取り』
(2015.2.1)

いつもワンパターンの駄文をお読み下さいまして、恐縮しております。
今回から、テーマを決めてそれに沿った内容になることを目指してと考えました。
考えきれない時には、これまでと同じ形になるでしょう。



今回は、『看取り』についてです。

皆さんそれぞれに必ず訪れる、人生の最後に『死』を何処で迎えるかと言うことです。
先月末に、地区医師会主催の看取りのシンポジウムが開かれました。
少子高齢化による医療及び介護などに係る社会保障費用が増え続け、その金額を如何
にして抑えるかが一番の課題になっている訳です。

そこで、これまで医療機関で行われてきた事を、出来る限り老健や特老等の施設を
含めた在宅で行うことなのです。

医療機関は急性期の医療を担うところで、慢性的で安定した状態に為ったら、在宅に
よる療養にするという事です。

高齢で死を迎えることは、急性期の病気ではないとの位置付なのです。

わかりやすく言えば、治療して回復できる状態であるのなら病院等の医療機関が携わり、
いわゆる自然死として扱うことが可能ならば、在宅で扱う事を勧めているわけで、その時
に私たち医療を担うものが、どのような形で寄り添う事が出来るかということです。

往診による看取り、すなわち家族の見守る自宅等で生涯を終えることなのです。

ご本人はもちろんご家族の方々のご理解が無ければ、出来ない事なので、そのこと
に関しては私たち医療を担う側が十分に説明し、ご理解を得ながら勧める事であると考え
ております。

皆さんからのご意見や疑問等有りましたら気軽に声掛けして下さい。



雪による犠牲者が尾花沢でも出ております。

これからも雪は続きますので、十分に注意して対処して下さい。

事故死は防げるものなので、注意、安全確認が一番です。

それではまた来月に、お会いしましょう。

平成27年2月 院長 清治 邦夫